

(案)

令和4年9月30日
R4③瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
資料2

令和4年度
瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価意見書

令和4年10月
瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

1. 位置づけ

当会議は、瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議要綱に基づいて開催される会議である。当会議は「産官学金労言士」(※1)及び公募市民によって構成されている。瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)の進捗状況に関しては、担当課において1次評価を行い、その後、当会議において外部の視点から2次評価を行うこととなっており、今年度は総合戦略の7年目(令和3年度)の事業について意見をとりまとめ、瑞浪市に対して意見を提出する。

※1:「産」は産業界、「官」は行政機関、「学」は教育機関、「金」は金融機関、「労」は労働団体、「言」はメディア、「士」は士業を指している。

2. 評価の範囲

当会議で2次評価対象事業は、次のとおり。総合戦略の事業のうち、現在までに2次評価を行っていない12事業を対象とした。

- ①高齢者就労機会確保事業(シルバー人材センター)
- ②高齢者安心支え合いポイント事業
- ③老人デイサービス事業
- ④不妊治療助成事業
- ⑤学校ICT活用推進事業
- ⑥ふるさとみずなみ応援寄付金事業
- ⑦市内就職促進事業
- ⑧地域活性化施設等整備基金事業
- ⑨農産物等直売所規模拡大整備事業
- ⑩エネルギー利用最適化事業
- ⑪防災訓練実施事業
- ⑫地域懇談会・市民アンケート実施事業

3. 評価手法

事業の評価手法は、事業概要、KPI(重要業績評価指標)、実績値等を記載したシートに、事業効果、事業評価、今後の方針等を下記の区分によって評価した。2次評価については、各事業担当課が行った1次評価の記載された事業評価シート等の資料を基に、担当課から、事業概要、投入コスト、実施状況、問題・課題、具体的改善内容やKPI(重要業績評価指標)に対する実績値などについての説明を受けた後、各参加者からの質疑応答を行い、各参加者の判断により評価を行った。今年度は3回の会議により、「産官学金労言士」及び公募市民で構成される各参加者の評価をとりまとめ、総合戦略推進会議としての意見を集約した。

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言えないような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった ー: コロナの影響を受け評価不可
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

4. 総評

令和4年度瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議は、令和4年7月20日、8月31日及び9月30日に計3回開催した。2次評価を行った事業は、現在までに2次評価を行っていない事業の12事業であり、その概要を総評する。

全事業において9名の参加者による効果検証を行った結果は、事業効果(4段階)では、地方創生に非常に効果的であったが43.8%、地方創生に相当程度効果があったが21.9%、地方創生に効果があったが15.6%、地方創生に効果がなかったが18.8%であった。また、事業評価(3段階)では、総合戦略のKPI達成に有効であったが72.9%、総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかったが8.3%、コロナの影響を受け評価不可が18.8%であった。このことから、令和3年度の総合戦略に位置づけた事業は、効果検証から見直しが必要なものもあるが、人口減少の克服、地域活性化に資する事業であると認められる。

令和3年度も引き続き、コロナの影響を大きく受けたと見受けられる。しかしながら、イベントの開催方法など新たな手法を取り入れる工夫を行い、目標値を上回る実績を上げる事業があり評価できる。今後もしばらくコロナによる悪影響を及ぼすことが考えられたためwithコロナを見据えた事業展開に期待する。また、各参加者からは、それぞれの事業に対して多くの意見が出され、いずれも地方創生の実現に向けたものであり、目指すべき将来の方向性に対する具体策などの提案があったため、今後の参考にされたい。今回、各参加者から出された意見を十分検討し、事業の改善発展に役立てるとともに、行政のみならず、外部の力を活用し、地方創生を推進していくことを期待する。

令和4年10月 日

令和4年度瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議参加者

座長 堀尾 憲慈
小島 博和
加藤 昇一
林 尚志
渡邊 隆夫
佐伯 さほり
鈴木 かおり
辻本 紀み子
藤本 敏子

《参考資料》

令和4年度瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議参加者

分野	選出区分	氏名	備考
「産」	瑞浪商工会議所	小島 博和	専務理事
「学」	麗澤瑞浪高校	加藤 昇一	-
	瑞浪高等学校	林 尚志	県立高校地域連携 コーディネーター
「金」	東濃信用金庫	渡辺 隆夫	瑞浪支店長
「労」	連合岐阜東濃地域協議会	堀尾 憲慈	事務局長
「言」	おりベネットワーク株式会社	佐伯 さほり	-
「士」	社会保険労務士法人まごころ	鈴木 かおり	代表社員
公募	公募参加者	辻本 紀み子	公募
「官」	瑞浪市役所	藤本 敏子	瑞浪市民生部次長

○瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議要綱

平成29年5月30日告示第90号

(趣旨)

第1条 この要綱は、まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条の規定に基づく瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)に関し、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見又は助言を求めるため、瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議(以下「推進会議」という。)を開催することに関し必要な事項を定めるものとする。

(意見等を求める事項)

第2条 市長が推進会議において、意見又は助言を求める事項は、次のとおりとする。

- (1) 総合戦略の進捗状況に関すること。
- (2) 総合戦略の見直しに関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、まち・ひと・しごと創生の施策に関すること。

(参加者)

第3条 推進会議の参加者は、次に掲げる者のうちから市長が依頼する。

- (1) 公共的団体の推薦を受けた者
- (2) 産業・経済関係団体の推薦を受けた者
- (3) 教育関係団体の推薦を受けた者
- (4) 公募による市民
- (5) その他市長が必要と認める者

2 前項の場合において、市長は、原則として同一の者に第5条に規定する開催期間継続して推進会議への参加を依頼するものとする。

(運営)

第4条 推進会議の参加者は、その互選により推進会議の会議(以下この条において「会議」という。)を進行する座長を定める。

2 市長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(開催期間)

第5条 推進会議の開催期間は、1年間を目途とする。

(庶務)

第6条 推進会議の庶務は、企画政策課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要綱は、告示の日から施行する。

【①高齢者就労機会確保事業(シルバー人材センター)】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
シルバー人材センター会員加入率(60歳以上人口割合)	2.5%	2.0%	高齢者の雇用の安定及び福祉の増進を図るため、高年齢者就業機会確保事業に対し助成します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (高齢福祉課)	D	—	見直し(改善)	介護現場等の人材不足の解消及び会員の介護予防、生きがいのため、高齢者の社会参加の場を提供することが大変重要であると考えられるため、本事業を継続する。	
1	D	—	見直し(改善)	一般業者との価格差・人材登用年齢・募集方法について、見直しすべきと判断されます。PR不足の面もあり市民にどれだけ浸透させるかが今後課題と思われます。	
2	D	—	見直し(改善)	高齢者の生きがいのため、働きやすい環境は必須だと思います。そういう意味で高齢者のハローワークとも言えるシルバー人材センターの役割は大きいと感じています。	
3	D	—	見直し(改善)	高齢者数の増加により社会参加の場をより多く企画する必要があり、本事業を拡大継続する。	今後、年金支給時期変更等の問題もあり、自助・共助の必要性大が予想される。介護予防・生きがいのためと介護人材確保のため、若い世代との交流事業を増やすなど多様な場の提供が望まれるのでは。
4	D	—	見直し(改善)	介護現場の人材不足解消。 高齢者の働く場所の提供は不可欠であり事業の継続をして欲しい。	各企業での人材不足、定年延長が検討されている事から、高齢者の働く場所の提供は絶対的に必要と考えられます。但し、定年延長に伴い65歳以上となって介護現場での働きには色々な問題や課題はあるようにも感じます、ここで挙げられた各種課題・問題点を更に協議頂き本事業の継続して欲しいと思います。
5	D	—	見直し(改善)	今後ますます高齢者比率が高くなっていく状況なので、改善すべき点を改善し、継続するべき。	広報みずなみの周知だけでなく、商工会議所あるいは各事業所での周知を要請する。退職後すぐにシルバー人材センターに加入させてくれた企業に対して補助を出すことも含め比較的若い年齢の高齢者の加入をめざす。
6	D	○	見直し(改善)	コロナ禍のより影響が出やすい分野だとは感じるが、すでにこの状況は2年経っているため、withコロナとして会員数アップにつながる内容を考えるべき。	より具体的な仕事内容や仕組みがわかるようになると、登録きっかけにつながるのではないかと。
7	D	—	見直し(改善)	高齢者と言えども、皆様お元気なので、お持ちの能力や知識等を活かして、地域に貢献していただきたい。 活動の周知に関して、例年通りの繰り返しと感じたので、新たな試みをしていただくことを願います。	KPIの設定に関して、あまり高い年齢まで含めるのはどうか？ある程度年齢を区切った方が現実的だと感じました。
8	D	—	見直し(改善)	シルバー人材センターの役割・必要性を広く市民に周知していく。	高齢者の働く場を提供出来る事業として今後も支援して頂きたい、シルバー人材センターが働く人も、それを利用する人も、互いに必要とし、共生出来る事を期待します。
9	D	—	見直し(改善)	周知の方法を検討し、会員増を行ってほしい。	定年延長や、趣味の多様化等、高齢者の働き方、定年後の過ごし方が変化していると思われる。このまま周知するだけでは、会員数は減少すると考えられるので、様々な方が集まる場所に出向き周知すること等、周知方法を工夫する必要があると考えます。

【②高齢者安心支え合いポイント事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
ささエール 会員登録 者数(累 計)	80人	39人	市の指定する講座を受講された方が、市に事前登録(ささエール会員登録)をして、介護施設(レクリエーション補助、傾聴、屋内外の清掃等)や高齢者宅(ゴミ出し、電球交換等)で支援活動を行います。活動に応じてポイントを付与し、貯まったポイントを商品券と交換できます。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (高齢福祉課)	C	◎	継続	会員自身の介護予防を図るとともに、今後の高齢化の進行に向けて地域での支え合い活動の活性化を推進することにより住民主体サービスの基礎を構築するため、事業を継続する。	
1	C	○	継続	登録についてももう少し考えるべきだと思います。ボランティア→ポイント→商品交換という図式については安易と考えられます。高齢者の方が喜びを感じて仕事に打込む姿ややりがいを感じられる様な組織事業づくりに期待します。	
2	C	○	見直し (改善)	私自身が活動自体を知らず、申し訳ありませんが、高齢者同士が支えあうことができるということは素晴らしいことだと思います。ただ、もう少し周知、広報の必要性を感じます。	
3	C	◎	継続	共助の観点から支え合い活動に重点を置き、地区(地域)格差を生じさせないようにしながら、本事業を継続する。	高齢者を支えるために、若年層との交流事業企画を増やしてはどうか。交流事業を各事業所や教育機関との連携による行事としてを設定し、市全体で高齢者支援を進めることにより、相互にポイントが付与される取り組みがあると良いのでは。若年層が高齢化問題に取り組むきっかけとしてはどうか。
4	C	◎	継続	コロナ禍で活動自体に制限があったとは思いますが、事業内容を展開するにあたりある程度の実績があった事は評価に値するものと思います。事業の継続をする。	事業内容自体の発想は良いですが、目的がささエール会員の登録者数の増加となっているような気がします。(高齢者の気持ちはどうでしょうか?) コロナ禍で活動自体の制限はあったとは思いますが、果たして活動に対するポイントを貯めたいまたそれがやりがいと思う人(方々)が瑞浪市民にどれだけいるのでしょうか?今後の方針として継続と判定しますが、内容の見直しは必要だと思います。
5	C	◎	継続	地域社会において支え合いの気持ちで会員となって、「お互い様」という精神を養うことに繋がればベスト。継続していくべき。	現在介護認定者を抱える家族においても、一定の基準をクリアすればささエール会員になれるといいと思います。時には他の家庭で介護することでストレス発散に繋がったり、仕事を持ちながら介護に従事する方への出張要請講座も考えてみてはどうでしょうか?
6	D	○	見直し (改善)	目標値のほぼ半数のため、評価としてはDとしました。WITHコロナでできる内容を検討すべきなのではと感じます。	ポイント交換が2名なのは運用方法に問題があるのか(手間、わかりにくい?)など、ある程度時期がきたら見直しが必要ではないでしょうか。
7	C	◎	継続	コロナ禍の中、活動が難しかったと思いますが、新規の講座を取り入れる等 変化に対応しておられるので、実績に繋がるよう今後に期待します。	
8	C	◎	継続	支え合うことで、他社への思いやり、関心が増し、豊かな幸齢社会にしていく。	新規会員増に期待します。それには、この事業の周知に今以上に力を入れて欲しい。ボランティア活動の最初の一步として取り組みやすいのではないのでしょうか。
9	C	—	継続	介護人材が不足する中で、高齢者自身が参加・活動しやすい事業を提供していくことが必要ではないか。	会員を増やすことは今後の改善内容にも記載あるが、活動の場がなければ意味がない。コロナ禍でどのように活動の場を増やしていくか課題であると考えます。

【③老人デイサービス事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
前期高齢者介護認定率(65～74歳)	2.3%	2.8%	生活意欲が低下し、閉じこもりがちな高齢者に対し、定期的な通所機会をつくり、交流を図ることで、生きがいを感じ、要介護支援者とならないように介護予防を行います。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価(高齢福祉課)	D	—	継続	閉じこもりがちな高齢者に対し、定期的な通所機会を提供し社会参加を促すことで、孤立感の解消及び介護予防に繋がるため、事業を継続する。利用者は年齢層の高い方が多いため、R4年度よりKPIを新規認定者平均年齢に変更する。(KPI値83.5歳、H30 83.1歳、R1 83.4歳、R2 83.0歳、R3 83.0歳)	
1	D	—	見直し(改善)	デイサービスの利用についてコロナ禍の影響により休館等により本事業の評価困難ではあると思われませんが、今後について引きこもり者のデイサービスの利用推進を民生員に依頼との回答でしたが、それでは今回と同じ結果になると思われます。今一度他市事業所の利用推進方法を学び、一から推進方法を見直しが必要と考えます。	
2	D	—	継続	引き続き閉じこもりがちな高齢者が要介護支援者とならないように、活動を継続。	
3	D	—	継続	なぜ閉じこもりがちになるかを再確認しながら、生活支援の在り方をより工夫するために、本事業を継続する。	後期高齢者ケアは究極の個別ケアでもある。個別であるがゆえに、孤独感が増すと考えられるが、その解消の一助となるために、「安楽」をキーワードとしたサービス内容の充実を検討すると良いのでは。
4	D	—	継続	世間全体がコロナ禍でコミュニケーション不足であり外出自粛の煽りを受けたことで交流を図りたくても図れない実情があったのではないのでしょうか？ 現在は、感染防止対策をしっかり講じて今後の実績につなげて欲しい。	本事業の目標達成には地域の民生委員、地域包括支援センターの協力無しでは成り立ちません。事業の継続にはこの方たちとの意見交換を積極的聴衆することも一つの手段だと思います。本事業はコロナ禍ではなかなか計画通りには進まないと思いますが他の市町村の情報を収集し成果に繋がる方法を協議されたい。
5	D	—	継続	介護認定を受けていない人に対して、少しでも介護状態になるのを遅らせる、または状態をかるくさせることに繋がる事業であると思う。独居老人に対しても孤独感を軽減させる効果はある。	地域包括支援センター、民生委員等関係者と連携を図ることはもちろんですが、現在健康であっても独居老人の方、後期高齢者に近い方などに積極的に参加してもらうようにしてはどうでしょうか？また、老人福祉施設だけでなく文化センターホール等で音楽を聴いたり、演奏したりすることも考えたらいいかと思います。
6	D	—	見直し(改善)	特に高齢者ということもあり、コロナ禍に影響されやすい。	今年度もそれ以降も、状況が変わるとは考えにくい。その中で何ができるのか具体的に考える時期ではないか。
7	D	—	継続	健康年齢を伸ばすために、重要な取り組みであると思う。 利用者の確保が課題なので、現状分析と魅力ある企画立案に期待します。	
8	C	—	継続	介護予防と施設を利用する事で、孤立させない。	介護される側、介護する側が介護疲れで共倒れにならない為にも、介護サービスは利用した方が良いと思う。施設利用者が減っているのなら、デイサービスの内容の見直し等検討する。たとえば、サロンをデイサービス施設に設け、地域の人が医療や介護、健康について悩みを相談出来る場とし、施設の活性化に繋げていく。社会的孤立をさせない為にも、老人デイサービス事業が人と人を繋げればと思います。
9	D	—	見直し(改善)	利用者が減少傾向にある中、工夫をこらした周知が必要ではないか。	介護予防のデイサービスは、各民間の事業所も多数あり、差別化を図る必要があるのではないか。

【④不妊治療助成事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
制度の年間申請件数	90件	64件	不妊治療費の一部を助成します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (健康づくり課)	B	◎	終了	R4年4月から不妊治療が保険適用となったことに伴い、助成事業を廃止とするため	
1	B	◎	継続	本事業について不妊治療は保険適用になった事から、助成事業については廃止となっているが、違う形(本事業が保険適用になる事・出産鬱等のケア)で継続支援事業としてもらいたい。	
2	B	◎	継続	「R4年4月から不妊治療が保険適用となったことに伴い、助成事業を廃止とするため」とのことだが、瑞浪市独自の取り組みとして、できるのならそれに越したことはない。	
3	B	◎	終了	令和4年4月から不妊治療が保険適用となったことに伴い、助成事業を廃止とするため。	子育て施策を含め、今後とも暮らしやすい瑞浪市のまちづくりに向けて具体化させると良い。
4	B	◎	終了	全国的にも少子化問題の対応策として高額の不妊治療費が課題となった結果、保険適用に繋がったものであり、目標に対する実績面では未達であるも一定の評価はできる。	目標設定時(策提時)から評価すればある程度の評価はできます。但し、市のHPや広報でのPR方法について環境変化や実態把握方法が課題が散見されます。本事業は終了となりますが、今後、取り組まれる各種事業においては瑞浪市民に広域に周知される方法を要協議されることを願います。
5	B	◎	発展	会議でも発言しましたが、保険適用となったからといって終わりではなく、さらに助成を続けることで瑞浪市としてのアピールポイントとなる。	会議でも発言しましたが、保険適用となっても治療費はかかるわけで、たとえ他市で実施していたとしても十分アピールポイントになると思います。私自身近い存在の知人も、「瑞浪は子育てしやすかった」といっておりました。そのイメージを更に良くしていくべきだと思います。
6	C	○	終了		目標数に対して約70%であるためCとしました。
7	B	◎	終了	保険適用となったため。ただし、保険適用の詳細がわかったのちに、瑞浪市独自の助成事業を期待します。	瑞浪市の将来を考えれば、一人でも多くの子を産んでいただく機会を支援することは重要であると考えます。通院のための特別休暇付与に対して、企業に助成金を出す等、幅広く。
8	B	◎	見直し(改善)	不妊治療の保険適用以外での支援を検討。	戦略目的にある「子どもを産み育てるなら瑞浪で」を実現するには、保険適用になったから助成事業をやめるのではなく、不妊で悩んでいる方達を大きくサポート出来る窓口が必要ではないか。経済的な悩みだけでなく、不妊治療に伴う不安や疑問等を少しでも解消出来れば、子供を産み育てる希望になる。
9	B	◎	終了		4月から保険適用となり事業は終了であるが、保険適用外となる治療もあるため、国・県の状況に留意してほしい。

【⑤学校ICT活用推進事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
小中学校 学習用ICT 機器普及 率	100.0%	100.0%	思考力・判断力・表現力と自ら学ぶ意欲と態度を育てるために、「できる・分かる授業」の充実の一助にICT機器を効果的に活用します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (学校教育課)	A	◎	終了	児童生徒や教職員もタブレットを使用することに慣れてきた。今後は更に効果的な活用方法を研究し、プログラミングなど、ICTを自在に活用できる能力の向上を目指す。	
1	A	◎	継続	ICTの推進について一定の評価が出来ると思われます。今後については利用方法・修得度のアップ並びにコミュニケーションのとれる人材育成を進めてもらいたい。	
2	B	○	終了	ICT教育のため、一人一台のタブレット端末やWifi環境の整備など、ハード面に関しては目標達成と言えるが、タブレットを効果的に活用した授業や、オンライン授業など、ソフト面に関しては今後の一層の努力が必要といえる。	
3	A	◎	発展	ICT機器の活用をさらに工夫し、遠隔教育について県内に限らず全国、さらには海外に向けた遠隔教育を実践するために本事業を追加・発展させる。	ICT機器の活用はあくまで手段として考えたい。高度な情報化社会だからこそ、人間にとって必要なのはコミュニケーション能力であり、その能力育成・向上のための工夫・改善に心掛けると良い。若年層発信で瑞浪市のことを広報し、異年齢・他国の方々と繋がることであれば効果大なのでは。
4	A	◎	終了	生徒や教職員は近年タブレット、スマホが身近にあることで活用方法にはすぐに慣れられる環境にある。今後は更なる活用法を工夫され能力向上につなげて欲しい。	生徒、教職員への環境整備が整った事は一定の評価ができる。各種課題も散見されるため、課題解決につなげて欲しい。
5	A	◎	発展	成果はあったと思うので、もう一段階上のステージに上がり、教職員も生徒もレベルアップを図る。	ICT機器に関して年齢や特性にもより、習熟度に濃淡があると想像されます。また、残業時間も増えてくると思います。教職員相互の情報交換だけでなく、支援員以外の市教委・県教委からのフォローも必要になってくるのではないのでしょうか？ICT機器の扱いが苦手な教職員に対しての評価をすぐに下げるのではなく、違った分野での活躍を促すことも必要ではないのでしょうか？いわゆるICTカウンセラーのような存在が。
6	A	◎	終了		他市に住んでいますが、子どもがどのように授業で使用しているかほぼわかりません。そうであれば通わせていない世代はさらに知らないなので、そういったことを広く周知することは他市との差別化にもつながると思います。
7	A	◎	終了	機器の普及に関しては、普及率が100%となったため。	ICT活用推進のために、支援員さんの拡充を図っていただけると良いと思います。
8	A	◎	終了	デジタル社会に於いてICTは不可欠。更なる有効活用を検討。	タブレットでの授業はコロナ禍では、とても有効だったと思う。しかし、全ての児童生徒が活用方法を理解できたとは思えない。一人一人に寄り添っての支援が必要だと思う。オンラインだから出来る授業を活発に行って欲しいです。
9	A	◎	終了		学習に関してはICTを活用することは今後必要な事業であったなかでスピード感をもってできたと思うが、今後の利用に関しては、教職員が先立って活用していくための研修がかなり必要と考えます。効果的な利用に向けて研修を行ってほしい。

【⑥ふるさとみずなみ応援寄付金事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
年間寄附金額	120,000千円	181,897千円	ふるさと納税制度を活用した事業で、寄附者が選ぶ場所を「ふるさと」として応援できる制度です。本市では、1万円以上の寄附者に対し、返礼品として地元特産品を贈ります。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (市民協働課)	A	◎	発展	ふるさと納税を活用し、地場産品のPRを強化することにより、地域経済の発展にも繋げる。R4年度は、全国各地の物や文化に精通した民間事業者により、本市の地場産品の監修を依頼し、魅力ある新たな産品の開発やブラッシュアップを実施し、当該産品をふるさと納税返礼品として活用することで、ふるさとみずなみ応援寄附金の増加を図っていく。	
1	A	◎	発展	担当職員の努力は評価できると思われませんが、独自目標値については達成できているも、他市と比較した場合実績値は高いとは言えないと思われま。今後について単体の商品でなく、セットアップした商品提供等検討され、更なる成果を期待しています。	
2	A	◎	発展	BEAMSとのコラボも他市との差別化にもなり、楽しみである。増えた税収をさらに産業の発展のために活用することができれば、よい循環が生まれる。	
3	A	◎	発展	若年層の発想を取り入れた新規企画も視野に入れた地域活性化に向けて、本事業を発展させる。	地場産品のPR強化については、高校・大学とコラボするなど若者の発想にも期待したい。また、地産地消の観点から各地区(各地域)の工夫・改善が一助となりうるだろうが、全国に目を向け、活性化に取り組んでいる地域と交流することも視野に入れると良いのでは。
4	A	◎	発展	事業が瑞浪市にとって効果的であったと評価できます。更なる取り組みで追加魅力ある新たな産品の開発やブラッシュアップを実施し、ふるさと納税返礼品として活用することで、応援寄附金の増加を図って欲しい。	市民協働課の活動の成果が見られ効果のある結果だったと評価します。
5	A	◎	発展	地場産品のPRを強化することなので、民間の力も借りながら新たな産品の開発も含めたブラッシュアップをしていくのは非常に有効であると考えます。	返礼品のプロとも言えるような民間業者の協力で魅力ある商品を増やし、寄附者の増加傾向をさらに上昇させていくことに繋がっていく期待が持てます。しかし、地場産品自体のPRを含め、制度のPR方法など研究が必要な部分もあると思います。
6	A	◎	発展	地場産品ブラッシュアップ事業やオウンドメディア等の効果に期待したい。	
7	A	◎	発展	新たな取り組みが功を奏して良かったです。みずなみのPRと、税収アップを更に期待します。	令和4年度の民間事業者による”よそ者”の視点を入れた監修に期待しています。
8	A	◎	発展	地域経済発展と瑞浪市のまちづくり事業の発展で魅力あるまちに。	年間寄附金目標を達成し、今後も発展する事業だと期待します。色々な角度からのアドバイスは効果的で良いと思う。返礼品が地産と決められているが、付加価値を付ける事で瑞浪ブランドとして返礼品になるような工夫と国への働きかけをお願いします。更なる返礼品の新規登録事業者が増えるのではないかと。魅力あるふるさと応援事業を知る事で住みたいまち瑞浪になるのではないのでしょうか。
9	A	◎	発展	ふるさと納税が浸透してきた今では、工夫をこらしたPR等行わないと寄附額の増加はできないため、発展は必要である。	市内の特産品の発掘を今後も続けてほしい。

【⑦市内就職促進事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
制度による雇用者数(累計)	60人	79人	市内企業を対象とした合同企業説明会の開催や、企業ガイドブックを作成し、市内企業への就職促進と職場定着を図ります。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価(商工課)	A	◎	継続	引き続き高校生に限らず、一般の求職者も対象とし事業を行う。また、対面形式での合同企業説明会を望む声もあるので、学校と連携を取り開催を検討していく。	
1					
2	A	◎	継続	減らした予算で例年通りの実績を上げているということなので、現場がしんどくなければ、継続で良いと思います。	
3	B	◎	継続	地元就職者を増加させるためにも教育委員会等との連携を強化し、本事業を継続する。	市内企業への就職促進を企画継続させていくためには、瑞浪市として高校生に限らず小中学生にも「仕事のすばらしさ」を周知する必要がある。教育行政の充実という観点から学校単位ではなく市全体として地元就職について学び、地元に着着させていく施策が必要では。
4					
5	A	◎	継続	地元に残って就職してもらうためにも必要な事業であり、他市からの移住者を呼び込めるような対策を行っていく必要がある。	地元で就職しにくいのは、一流といわれる企業が少なく、賃金の部分で将来性を見いだせないことなどがあると考えられる。企業説明会あるいは企業紹介動画において、取得できる資格やスキルはもちろん、できる限り将来性の部分についても紹介していただき、成功した先輩たちの動画やあまり知られていない企業の魅力を発信していただきたいです。瑞浪市で就職しても大丈夫だ！と思えるように。
6	B	◎	継続	参加した企業側の意見も取り入れつつ、引き続き説明会の開催方法も含めて検討が必要。	Uターン転職者は移住と定住と定住がセットになってついてくるため、そこにも力を入れてはどうでしょうか？
7	A	◎	継続	時代にあった、webでの採用・求職活動の支援により、コストパフォーマンスが高かった。	就職先が市内となることで、将来の人口流出を防ぐことができるため、さらに積極的に支援していただきたい。
8	A	◎	継続	合同企業説明会参加企業の増加促進と求職者が望む情報発信の強化。	コロナ禍で、Webでの合同説明会は、サイトアクセス数が多く大変に良かったと思います。市内企業が魅力ある職場である事の情報・発信を合同企業説明会等で積極的に行って頂きたいです。
9	A	◎	継続	職種によっては人手不足の状況のままであるものもあるので、魅力のある情報発信が必要である。	Webでの企業説明会と対面の合同説明会の2つを工夫して行うことで市内の就職促進が図れるとよいと思う。

【⑧地域活性化施設等整備基金事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
基金活用件数	1件	2件	歴史的な建築物の改修等、地域を活性化する施設等の整備の資金に充てるため、地域活性化施設等整備基金を造成し、運用します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (商工課)	A	◎	継続	民間都市開発推進機構との拠出により基金を創設し、令和8年度が最終年度となっているため、引き続き継続していく。	
1					
2	A	◎	継続	クラウドファンディングで資金を集め、活動していることを考えても、とても良い取り組みだと思います。継続、拡大できると嬉しいです。	
3	B	◎	継続	市内の高校生・大学生など若者がまちづくりや地域の活性化に携われるように新たな整備施策と予算を企画し本事業を継続する。	地域の活性化を図るためには、若手・青年層の発想力を上手く生かすと良いのでは。その一つとして市内高校は、文科省が掲げた新学習指導要領にある「探究活動」を取り入れている。探究活動を支える新たなプロジェクトを別途予算立てのもとに企画を拡大継続すると良いのでは。
4					
5	A	◎	継続	令和8年度が最終ということもあるが、まだまだ拡大していける余地はあると考える。	中山道＝細久手宿～大湫宿～御嶽宿までの瑞浪市内の部分、アフターコロナで再開できるインバウンドに向けて、できる限り再生していくことを考えていただいていますでしょうか？瑞浪駅からのアクセスさえなんとかなれば観光客を呼び込む可能性は残っていると思います。自動車での来客も含め、まだまだ大きな魅力を残している宿場町だと思います。
6	A	◎	継続	地域活動につながる活動のため引き続き継続とする。	対象となりうる施設も申込書も限られている？など内容が特殊なため、ちらしやHPだけでは伝わりにくい。
7	A	◎	継続	歴史的な建築物等を守ることは、瑞浪市の損失を防ぐことに繋がる。	補助金交付後の効果について、評価をする機会があると良い。
8	A	◎	継続	基金活用事業の理解を広げ、地域活性化を推進する。	2件の基金活用事業を成功例として、広く市民に知らせ、我が地域もこの整備基金を活用して事業を起し、地域活性化と、地域住民の喜びに続けていく事業に期待。しかし、事業経営となると、ハードルが高くなると思うので、行政も寄り添って欲しいです。
9	A	◎	継続	魅力のある活用を期待したい。	問題・課題にあるように活用のイメージがしづらいため、今後も活用事例の紹介は必要である。

【⑨農産物等直売所規模拡大整備事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
瑞浪ポーノポーク(精肉、ハム・ソーセージ)年間売上高(きなめた瑞浪)	22,500万円	15,652万円	精肉処理機能の強化、新たな衛生管理基準(HACCP)への取り組みが可能となるよう施設を改修します。また、瑞浪ポーノポークや加工品をその場で消費することが可能となる施設を建設し、瑞浪ポーノポークの年間売上高の増加を図ります。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (農林課)	C	◎	継続	農産物等直売所隣接地にバーベキュー場を整備し、瑞浪ポーノポークの精肉、ハム・ソーセージ等の加工品の消費拡大を促進する。また、加工品の売上高増加を図るため、インターネット等を活用したPR活動を実施し、都市圏等の客層の確保を図っていく。	
1					
2	C	○	継続	コロナの影響がなければ、もっと売上げが伸びていたと想定されるため、評価は○にしました。バーベキュー場の開設など、コロナが収まった時、さらに楽みな施設です。	
3	C	◎	継続	商品開発を含めたPR活動をさらに工夫改善し、全国に地元農産物を紹介するなど活動を広げるために本事業を継続する。	現在、SNS等を活用した情報拡散は若者を中心に計り知れないものがある。そこをうまく活用するために、市内の高校・大学など若い力を活用し、事業所等と連携しながら、商品開発力を入れるとさらなるPR活動となるのでは。また、バーベキュー場だけでなく、新たにオートキャンプ場(温泉施設を併設するとなおよい)を設置することも考えたらどうか。
4					
5	B	◎	継続	「瑞浪ポーノポーク」というブランドをさらにPRしていく必要がある。加工品の売上げ増加を含め取扱店そのものを増やし、安定的に見聞きできる環境を作る。	瑞浪市内のみならず他市においても「瑞浪ポーノポーク」取扱店を増やし、ミシュランガイドに載るような店にも扱ってもらい、ネームバリューを高くする。又はチェーン店に安く提供し常に店内に掲示してもらうようなシステムを築く。
6	C	◎	継続	インターネット販売の強化が今後の売上げ増につながるため、PR他、販売手段の検討が必要。	手数料がかかったとしても、モール販売を行った方が、結果売上げアップになるのではないかと。SNS等のPRが来場購入に直結するとは考えにくい。
7	C	◎	継続	目標指標に達しなかったものの、前年度よりは実績値が上がった。瑞浪市のブランド豚であるので、販売増加と共にまちの知名度があるため、目標達成に向けて頑張りたい。	BBQ場の完成が楽しみです。来場者数を増加させるための具体的な計画を立て実行していただきたいです。
8	B	◎	継続	販売拡大と地元農産物等の認知の周知への強化。	バーベキュー場を建設する事で、市内・県外の人が利用可能になり、売上げ増が見込まれると思います。地元の農産物等を今以上に誇りを持って販売することで、やりがいもあるでしょう。認知度向上の為に様々な努力を希望します。
9	C	◎	継続	インターネットをうまく活用する必要がある。	自主サイトだけの運営ではSNS等広がりには欠けるのではないかと。

【⑩エネルギー利用最適化事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
制度による年間補助件数	30件	57件	地球温暖化や災害対策のため、太陽光発電の自家消費を促し、家庭用燃料電池等の設置費の一部を補助します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (環境課)	A	◎	継続	広報等によりエネルギー利用最適化事業補助金のPRに努め、導入を促進する。	
1					
2	A	◎	継続	実績が上がって一方で、太陽光発電システムに対する懐疑的な見方(環境問題や電気の買取価格の低下など)があり、数年後はやや不安な事業でもあると感じています。	
3	A	◎	継続	学校教育の一環として太陽光発電の必要性を広く広報し、将来にわたって必要となるエネルギーの確保という観点から本事業を継続する。	設置及び維持管理のコストをどのように削減するかという大きな問題もあるが、そもそも学校教育の中で太陽光発電システムが必要だという教育の観点での実践が必要なのでは。そのためには、市内の学校に何らかの形で太陽光発電を活用した施設設備を整えると、若者に将来にわたっての必要性が理解できるかもしれない。
4					
5	A	◎	継続	全世帯数に対する導入比がまだ低い状態なので、いろいろな機会でも補助金制度のPRをしていくことが必要である。	昨今のエネルギー事情、増加する災害等により、再生可能エネルギーに対する意識は高まっていると思います。こういうタイミングを利用して実際災害が起きて停電したらどうなるのか、どういう対策が必要なのかを含め周知するとともに、経済的に余裕のある市民に既存の施設に対して設置することを依頼することも必要なのではないかと思います。例えば大豪邸の屋根に太陽光パネルを設置したら返礼品を送りますよ、とかふるさと納税と同じようなシステムで呼びかけるとかしてはどうかと思います。
6	A	◎	継続	引き続き、補助申請のPRを行う。	
7	A	◎	継続		個人的には太陽光発電を推進する国策に疑問を感じています。
8	A	◎	継続	SDGsの促進の周知と広報の強化。	補助金を利用しようとする方には、ライフサイクルコスト(生涯費用)を丁寧に説明して、事業の推進向上に努めて下さい。
9	A	◎	継続	導入コストも高額になると思われるため周知が必要。	周知に努めていくことが必要と思う。

【⑪防災訓練実施事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
防災訓練実施率(実施自治会÷全自治会)	100.0%	100.0%	区や組単位の小規模防災訓練の指導および支援を行い、市民の防災意識の向上に努めるとともに、地域の防災力の向上を図ります。 また、地域の防災リーダー等で組織する「みずなみ防災会」に交付金を交付し、同会の防災活動の活発化及び会員の資質向上を図ることで、地域における防災訓練の実施を促進します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (生活安全課)	A	◎	継続	新型コロナウイルス禍を、「自分の命は自分で守る」自助の考えや、避難所を自ら選定し判断する分散避難を浸透させる好機と捉え、より一層の啓発活動に努めます。	
1					
2	A	◎	継続	いつ、何があるかわからないからこそ、日頃からの防災意識は高める必要があります。 訓練はその良い機会だと思います。	
3	A	◎	継続	自助・共助・公助の考え方を浸透させるために、教育行政と連携しながら本事業を継続する。	毎年起きている自然災害により、防災に対する意識は向上していると考えられる。しかし、突然の災害には戸惑うことも多く、高齢社会となっている現在、多くの防災リーダーの必要性が望まれる。また、訓練については、形骸化しないように例えば、訓練の時間帯を夕方にするなどあらゆる場面を想定した方が良いのでは。
4					
5	A	◎	継続	市民一人一人の防災意識を高めるためには、小さな単位組織での防災訓練は必要であり、継続していかなくてはならないと考える。	地域における防災活動になかなか参画できなくても、防災士の資格を取得するだけでも、緊急時に役立つ知識を得るし、避難所でのリーダー的な役割を担っていただくことに繋がる。まずは地域の代表である市議会議員の皆さんが防災士の資格を取得していただきたい。市民委員会でこういう要望が出た！と伝えていただければ少しは変わるかも知れません。
6	A	◎	継続	日頃の活動が有事の際に役立つため継続。	啓発だけでなく、清掃活動並みに市民の参加意識が高くなる防災訓練の実施を検討してもらいたい。
7	A	◎	継続	防災は、自助共助が重要な分野であると思う。	防災訓練実施率100%が定着した後は、KPIの設定について視点を変えてはどうか。
8	A	◎	継続	地域防災力の向上と防災リーダー・防災士の推進強化。	コロナ禍では、大人数での、防災訓練は難しいです。これからも、少人数で出来る防災訓練を工夫して実施する事をのぞみます。有事の際に活かされると思います。
9	A	◎	継続	コロナ禍で工夫し訓練を行っている。	防災意識を高める活動を進めてほしい。

【⑫地域懇談会・市民アンケート実施事業】

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
アンケート回収率	45.0%	44.5%	市の施策や方針に対する市民の意見や要望、評価を把握するために、毎年、各地区や各種団体ごとに地域懇談会を開催します。また、毎年、数値目標の達成状況を確認するため市民アンケートを実施します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (企画政策課)	B	◎	継続	地域懇談会や市長と語る会は、市民や企業、団体の方々から直接意見を伺うことができる貴重な機会であるため継続して実施します。アンケート回収率傾向からインターネット回答の可能性について検討し令和4年度よりを実施します。数値目標(市民満足度)を定期的に調査することで、多様化する市民ニーズに対応したまちづくりの推進を図ります。	
1					
2	B	◎	継続	アンケートは回収率が高ければよいと思っていましたが、高すぎることも問題と知りました。	
3	B	◎	継続	市民の意見・要望を的確に把握し、今後の市政運営に生かしていくためにも本事業を継続する。	アンケート形式は、時として形骸化する恐れもあるので、質問項目等継続的な工夫が必要では。また、面倒だが記述式から読み取れる意識度・認知度はとても重要ではないか。地域懇談会でうまく話せない人も多いということを忘れてはならない。語る会はパフォーマンスになる可能性もあり、話題の重点化が必要では。
4					
5	B	◎	継続	市民との直接的な対話は重要である。そして、ネット時代なのでインターネットでのアンケートやパブリックコメントも必要となってくる。	市長と語る会は、委員会に選ばれている団体も含め多様な団体との機会を設けていただきたい。
6	B	◎	継続	事業評価や施策反映に関わることであるため、継続した取り組みが必要。	地区懇談会やアンケート回答者の年代をサーチし、回答者が少ない年代への取り組みも検討してほしい。
7	B	◎	継続	市民のための市政であることを考えれば、必要である。	若者の意見も多く聴取できる工夫を期待します。
8	B	◎	継続	地域懇談会等の開催継続と市民アンケートの回答回収率の向上。	地域懇談会と市長と語る会の強化に努めて頂き、市民の生の声を把握して住みやすいまちづくりを目指して下さい。市民アンケートの回収率が約4割です。この数値での回答で市民満足度を評価するのは無理があると思いますが、回答の内容には、真摯に受け止め、市民満足度向上に取り組んで下さい。
9	B	◎	継続	地域懇談会は、学生などの意見も聞く機会を設けているなど工夫を凝らしている。	若い世代へのアンケートはインターネット回答のほうが回答しやすいと思いますので、うまく使い分けて回収率を上げてほしい。